

一般社団法人日本粘土学会 2019 年度第 4 回理事会議事録

日 時：令和元年 8 月 24 日（土）15:00～17:30

会 場：(株) 国際文献社パブリッシングセンター 8 階会議室

出席者：理 事(17 名)：山崎淳司、河野元治、中川昌治、佐藤 努、大川政志、太田俊一、岡田友彦、小口千明、亀島欣一、川俣 純、寒河江竹弘、鈴木憲子、鈴木正哉、高木慎介、高橋範行、中戸晃之、渡邊雄二郎

監 事(2 名)：月村勝宏、志々目正高

理事以外の常務委員(2 名)：伊藤健一、田村堅志

事務局：川島朝子

欠席者：理事(11 名)：伊藤弘志、蛭名武雄、大河原正文、桑原義博、笹井 亮、手束聡子、日比野俊行、万福裕造、牧野知之、森下智貴、横山信吾

成立確認：理事総数 28 名の過半数 14 名、出席理事 17 名で理事会の開催は成立

審議事項

1. 2019 年度事業報告（資料 1）

山崎会長より資料 1～4 は総会議案書であることが確認され、表紙の場所を「301 教室」に訂正をした。

各担当委員（欠席は常務委員長）から資料を基に報告があった。1-(2)Clay Science 発行について以下の訂正をした。

平成 30 年 8 月 Vol.22, No.3 発行 掲載論文数 3 編

平成 31 年 1 月 Vol.22, No.4 発行 掲載論文数 3 編

平成 31 年 3 月 Vol.23, No.1 発行 掲載論文数 3 編

令和元年 6 月 Vol.23, No.2 発行 掲載論文数 2 編

山崎第 62 回粘土科学討論会実行委員長より、2-(1)-4) について開催日時の訂正があり、9 月 12 日（水）とした。小口第 63 回粘土討論会実行委員長より 2-(2)-6) について、総会時には終わっているので「依頼を行う」とすることが示された。鈴木参考粘土委員長より記載事項は 7 月 19 日までであるがその後頒布があったので、7 月 31 日までのデータに訂正をして総会に提出することが報告された。9-(2)協賛件数を 4 件に訂正した。

その他軽微な修正を加え、審議の上承認された。

2. 2019 年度会計報告および監査報告（資料 2）

伊藤会計委員より資料を基に説明があった。資料中日付は和暦に訂正し、また「2. 2019 年度学会誌出版事業会計決算」と「3. 2019 年度参考粘土試料頒布事業会計決算」は一般事業収支であるので総会決算書からは除外し補足資料とすることとし、項目番号を繰り上げることにした。その後、志々目監事から監査報告がなされた。会計士からも指摘されているように、正味財産期末残高は単年度収入程度保有することが望ましいのでなんらかの方策が必要であるとの意見が出された。

以上、審議の上承認された。

3. 2020 年度事業計画（資料 3）

各担当委員（欠席は常務委員長）から資料を基に報告があった。1-(2)Clay Science の発行

日程に関して以下に訂正をした。

令和元年 8 月 Vol. 23, No. 3 発行予定

令和 2 年 1 月 Vol. 23, No. 4 発行予定

令和 2 年 3 月 Vol. 24, No. 1 発行予定

令和 2 年 6 月 Vol. 24, No. 2 発行予定

その他改行、誤変換、年度などを修正し、承認された。

4. 2020 年度収支予算（資料 4）

伊藤会計委員から試料を基に説明がなされた。表中「2019 年度決算額」を「2019 年度予算額」に訂正をした。会費の減収は会費滞納者を退会としたためであるとの説明があった。会費収入については日付をいれて現会員数に修正をすることとした。予算額はおおむね 2018 年度の実態に合わせたものであるとの説明があった。減収とはなるが支出も抑えたているのでギリギリ黒字の予算を計上できた。

以上、審議の上承認された。

5. 2019 年度総会の準備、進行等（資料 5）

佐藤常務委員長より資料を基に説明があり、当日の業務について担当者に依頼があり承認された。

6. 2019 年度表彰式の進行（資料 6）

佐藤常務委員長より資料に基づき説明があり、承認された。川俣選考委員長より第 63 回粘土科学討論会における優秀講演賞の審査を理事の方々をお願いしたいとの申し出があり、承諾された。また佐藤常務委員長より川俣選考委員長に、AIPEA への報告のため写真撮影の手配をしておくのがよいとの提言があり、討論会中の他の撮影も含めて小口実行委員長に依頼された。

7. 第 63 回粘土科学討論会（当日配布資料）

小口実行委員長より資料を基に説明があった。予約登録をしたが振り込みがまだの人は 8 月 31 日まで事前払いを適用する、また見学会はまだ余裕があるので、ふるって参加して欲しいとのお願いがあった。

以上、審議の上承認された。

8. 参考粘土試料のロット変更と非会員への販売量について（資料 7、8）

鈴木参考粘土試料委員会委員長より資料に基づき説明があった。関白カオリナイトは令和元年 9 月 2 日より現行ロット（JCSS-1101b）から新ロット（JCSS-1101c）に移行をする。現行ロットは稀少であるが在庫があるので、令和元年末までは希望で頒布をする。

非会員から 100 g を越えての頒布申し込みがあった。委員会では規定には反するがその旨を伝えた上で今回は頒布したいとのことであった。企業からの申し込みであることを鑑み、関白カオリナイトは今後の供給が難しいことを伝えることとした。また、賛助会員への勧誘もすることとした。今後同様な注文があった場合は、会長、常務委員長と協議して頒布するかの判断をしたいとの見解が出された。

以上、審議の上承認された。

9. 2020 年地球惑星連合大会におけるセッション提案について

佐藤常務委員長より、JpGU2020 大会では AGU とのジョイントミーティングが予定されているので英語のセッションを提案して欲しいとの依頼があった。また、総会などで会員にお願いをすることが承認された。

10. その他（当日配布資料）

山崎会長より増収対策の提案が資料をもとに説明され、以下の様な意見が出された。

- (1) 会費と投稿料は時期を分けて提案するのが良い。
- (2) 学生会員は会員数も少ないので現状のままで良いのではないか。
- (3) 会費の値上げはあまり効果がないので他の施策を考えるべきである。
- (4) Clay Science の投稿料値上げは、現状でも少ない投稿数を更に減らすことになる。
- (5) 赤字の続く英文誌を値上げしてまで続ける意義があるか。
- (6) 収入に合わせた事業を検討すれば、値上げする必要はない
- (7) 現在ある事業活動を「今までやっていたから」ではなく見直すなど、将来計画を考える必要がある。
- (8) 将来的に考えるならば会員年齢構成の検証が必要。

会費の変更については会費規定で総会議決が必要となっている。今回の総会では本件についての提案はせず、財政状況を説明した上で会費等改正について議論があることを報告することとした。

以上、議論の上承認された。

報告事項

特になし。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、会長及び監事がこれに記名押印する。

令和元年 月 日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

代表理事（会長） 山崎 淳司 ⑩

代表理事（副会長） 河野 元治 ⑩

監 事 月村 勝宏 ⑩

監 事 志々目 正高 ⑩